

こだわりの外壁通気工法

ここが
ポイント

外壁通気工法は壁体内結露を防止し
大切な住まいの耐久性を高めます

通気工法とは、構造体と外壁材との間に通気層を設けて空気の流れるスペースを作り、空気と共に壁内部の湿気を屋外に排出することによって木を守り家の耐久性を高める工法です。

●外壁通気工法って??

- ①木造の建物を長く保つためには、木材を乾燥させることが大切
- ②湿気は建物の内外から入り込む
- ③暖かい空気は多くの水蒸気を含むことができるが、気温が下がると内部結露が発生しやすくなる
- ④だったら、壁の中の水分を放出してしまえ。

という考え方で生まれたのが、外壁通気工法。

そのために、透湿防水シートという水蒸気（湿気）は通すが、雨は通さない材料が生まれた。

つまり、建物の壁の中を乾燥させ、建物の耐久性を高める工法

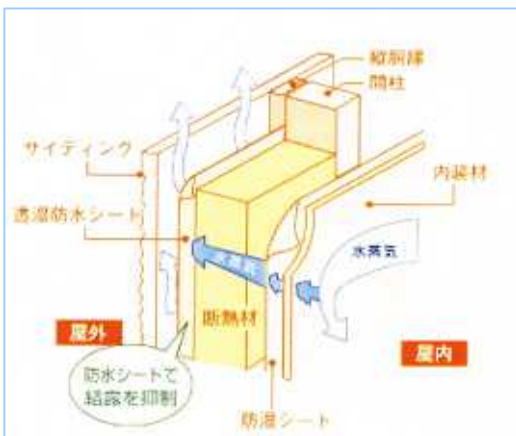


通気

「通気構法」により
住まいの耐久性がさらに向上します。

壁体内の結露を防止

室内の湿気は内装材を通して壁の中に幾分か浸透していきます。壁が密閉状態の場合、逃げ場がなく外壁材の裏面や壁体内で結露が発生する事があります。通気工法にすることにより、速やかに湿気を外気に放出させ内部結露を抑制する事ができます。



室内側の雨水の浸入を抑制

通気層を確保する事により、進入した雨水を速やかに排出する事ができます。また室内への雨水の浸入を防ぐ事ができます。



遮熱効果

通気層の通風によって遮熱効果が得られます。

